



大学開学30周年を迎え
新たな息吹で!

学 長 櫻 井 隆

新しい年の始まりにあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、これまでのような教育・研究活動を進めることができず、遠隔授業中心の授業スタイルとなりました。



また、クラブ活動や委員会活動も通常通りにはいかないことも多々ありました。今年も新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた対応を取らざるを得ないということになるかと思っています。しかし、このような困難な時代だからこそ様々な新しい提案も生まれました。例えば、リモートによる大学祭の開催です。これまでは本郷キャンパスとふじみ野キャンパスは同日開催のため、大学祭での学生間の交流が難しいと

ころがありました。また、リモートだからこそ両キャンパスの学生同士の交流ができた大学祭を開催することができました。あるいは大学に通わなくてもよいということで、空いた時間を使って復習や予習の時間が増え、その結果、全体として昨年以上の成績となりました。このように困難をバネに変えて新しい取り組みが生まれました。

さて、本年、本学は大学開学30周年という記念すべき年を迎えます。

1991年(平成3年)経営学部の開設に始まり、本年4月より新たに大学院看護学研究科もスタートし4学部10学科、5研究科になります。このように本学はこれからも一歩先を見ながら改革に取り組んでいきます。社会は日々毎日大きく変化を遂げています。そのような時代に生きる私たちは常にその変化を的確にとらえながら、スピード感をもつてことに当たらなければなりません。創立者島田依史子先生は『私の歩んだ道』の中で「変転きわまりない世の中の動きを見る目を持たね

ばならない」と述べられ、「そのためには多くの書物も読まなければならない」といわれております(同20頁)。

活字離れが叫ばれてから久しいですが、どうか学生の皆さんは良書に親しんでいただき、多くの知識を書籍から学んでください。そして激動の現代を知識と知恵を駆使しながら、新たな道を切り開いてください。

本年も学生の皆さんと共に色々な取り組みに挑戦したいと思っておりますし、そのように念願しております。

ウィズコロナ・ポストコロナの
教育を目指して

理事長 島 田 昌 和

新たな年を迎え、一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、園児・生徒・学生の学びや育ちの場が大きな制約を受ける苦しい一年でありました。まだ予断を許さず、来たるべき入学試



験・卒業式・入学式等をはじめとし、新年度を如何に迎えられるか、緊張を強いられながらの日々が続いて参ります。基本姿勢は教育を止めない、ありとあらゆる方法を用いて、この状況下で従前に劣らない教育の提供を皆様にお届けすることであります。

2021年は大学創設30年を迎え、2024年の学園創立100年が近い間近になってきたというタイミングになります。コロナ禍を含め、人類が取り巻く環境のさまざまな激変に翻弄される時期になつていくのかもしれない。それは地球の気候変動や必要な資源問題、貧困や格差の拡大、人種や宗教、政治や文化背景の違いに根ざした民族や国家間の軋轢などがあります。しかし、これらはすべて人類が引き起こした、人為的な原因によるものばかりです。我々はそのような陰鬱とさせるような諸問題に立ち向かう力を身につけなければならぬ訳です。

人々が生きていくための経済活動のあり方そのものも疑問が呈されています。株主価値の最大化のための資本主義システムが、欧米でも見直しの声があちこちに上がり始めました。企業の広い利害関係者を視野に入れ、環境や社会への配慮や企業統治の尺度によって経営し、投資すべしという声が広がっています。

日本においても、私が長年研究する渋沢栄一の「合本主義」や『論語』にもとづく倫理的な経営に注目が集まっています。実は日本は、今世界が目指そうとする資本主義の方向性を過去において実現していた国なのです。これからはじまる世界の変化を主導したいものです。

大学では「共育力」すなわち、仲間とふれあい、わくわく悩むなかで共に育つ教育を標榜しました。これはまさに、渋沢栄一の目指した社会、ひいてはこれからの世界が目指すべき目標に合致したものと考えることができるのではないのでしょうか。混沌たる世界をわくわく切り開くではありませんか。

「共生」の新段階の時代へ

学園長 島 田 燦 子

年頭にあたり本年も皆様健康で幸多い年でありますよう祈念申し上げます。2021年は世界が希望に向かい、オリンピック、パラリンピックも無事に行われる友好の年となりますよう願っております。



それにしても、昨年の正月に新型コロナウイルスの猛威がかくも世界中を長期間にわたって悩ませるとは想像もしていませんでした。

人類はこれまでも様々な感染症と激しい闘いをしながら今日に至っています。たびたび大流行したペスト、コレラ、天然痘など世界的規模の感染症にも悩まされました。これらの病が広がるには時間がかかりましたが、今度の新型コロナウイルス感染症は短期間でパンデミックを引き起こし、これまで天然痘、結核、

ハンセン病などの感染症に比べてかなり抑え込んだという科学の自信は、今回のコロナ禍でまだまだ甘いことを思い知らされました。私たちは感染症についての正しい知識を持ち「ウィズコロナ」の生き方を考える必要があります。「共生」が大切なのです。

昨年は社会全体でこの「共生」の新しい生き方に取り組む、文京学院においても様々な工夫をいたしてまいりましたが、今年も一層の改革をして教育の充実も図ってまいります。

本年はもう一つ大きな課題があります。地球上からCO₂とプラスチック容器の使い捨てを減らす第一歩の年という環境問題の転換です。年末、日本政府は2030年までに国内で販売する乗用車の新車を電気自動車(EV)やハイブリット車(HV)など排ガスの少ない車に限る目標を掲げました。これは産業の転換を伴う大変なことなのですが、世界の潮流になりつつあります。

もう一つのプラスチック容器の使い捨てを減らして環境への負荷を少なくする課題に

ついては、昨年レジ袋の有料化が始まり「マイバック」持参が推奨されるようになりました。今年はエコの概念がこれを機に深まってくるのではないかと考えています。国連がSDGs「持続可能な開発目標」を掲げ17のゴールを定めても大国が拒否していましたが、ようやくアメリカ、中国が足並みを揃えてきました。

本学園中学・高校でもしばしば研究テーマになっている大切な環境教育も、学園全体で前進してくれるよう願っております。

、例年行っている私たちには、この年でありません。

大学 中島ゼミ生「アカウンティングコンペティション」でW受賞

経営学部の中島真澄ゼミナール「チームC」が、第5回アカウンティングコンペティション実証研究分野で「最優秀賞」と「学生最多得点賞」をW受賞しました。

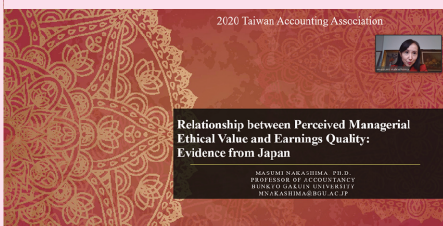


受賞盾を持つ能勢さん(左)と氏家さん

賞をいただくことができた。この経験を活かして、今後の研究へと繋げていきたいと思っています」
 ●氏家「毎日の研究の成果を出せたと思います。チームは2人でしたが、他のゼミ生や先生の協力があつたからこそ最優秀賞であると考えています。この結果に甘んじることなく、これからも努力していきたいです」

同アカウンティングコンペティション(通称アカコン)は、2016年に創設された会計分野における大規模な学生発表大会です。今回は、コロナ禍を考慮して昨年12月13日にオンライン方式で開催され、全20大学、30ゼミナール、54チームが参加。本学からは、中島教授のゼミ生が3チームに分かれて参加しました。
 ●能勢「2年生2人で研究を進めていく上で不安なところばかりでしたが、中島先生と先輩方のご指導とサポートのおかげで、名誉ある審査により、各賞が選出されました。」

大学 中島教授「台湾会計学会年次大会」で発表



中島教授オンライン発表

経営学部の中島真澄教授が昨年11月26日、横浜国立大学の高須悠介准教授とともに日本会計研究学会の代表として「2020年度台湾会計学会年次大会」で研究発表を行いました。

テーマは「経営者の倫理的価値観と利益の質との関係：日本からの実証」。同研究では、日本の上場企業最高財務責任者(CFO)に対するサーベイ調査回答に基づいて、構造方程式モデルを用いて経営者の倫理的価値観およびインセンティブ/プレッシャーが利益の質に影響を与えるかどうかを検証。フレームワーク(枠組み)には、上層部理論(Upper Echelon Theory)と不正のトライアングル理論(Fraud Triangle Theory)に基づく計画的行動理論(Planned Behavior Theory)を適用しました。同研究において、経営者の倫理的価値観をtone at

the top(TATT)として定量化し、共分散構造分析を実施した結果、TATTは、認知した利益の質に有意かつ正の影響を与え、インセンティブやプレッシャーは、認知した利益の質に有意かつ負の影響を与えることが判明しました。

中島教授は、次のようにコメントを述べました。「拙研究で、経営者の倫理的価値観が高いほど、利益の質が高くなることを明らかにすることができました。会計不正事件で日本の証券市場の信頼性が失墜してしまいましたが、当該結果から日本企業経営者が真摯に経営行動をとっていることを世界へ発信することができてよかったと存じます。今後は、企業が開示する非財務情報と経営者の裁量行動との関係性を検証していきたいと存じます」



中島教授

大学 『はじめての渋谷栄一 探究の道しるべ』出版記念シンポジウムをオンラインで開催

渋谷研究会創立30周年記念「渋谷栄一・文京学院大学共催」「はじめての渋谷栄一」出版記念シンポジウム「渋谷栄一の側面とは？」が、昨年12月12日、オンライン開催されました。当日は、一般参加者をはじめ渋谷研究会関係者、本学学生や生涯学習センター講座受講生など200名以上が参加しました。

本学経営学部の川越仁恵准教授の司会により、まず櫻井隆学長・教授が挨拶。続いて、3部編成の各部の狙い概説について、次の編集担当者が解説しました。
 ●第一部「一般読者のための渋谷栄一ガイド」島田昌和本学園理事長・教授/渋谷研究会代表 ●第二部「大學生・外国人学生のための渋谷栄一ガイド」恩田睦明治大学商学部准教授 ●第三部「学校現場での渋谷栄一ガイド」是澤博昭大妻女子大学教授

これらコメントに対して、3部編集担当者がリプライし、内容がさらに深まりました。



解説する島田理事長(左)

休憩をはさんで、事前に収録した本学経営学部学生と本学園理事長・教授/渋谷研究会代表の動画を流し、さらに京都産業大学・千葉経済大学の学生から届いたコメントを代読。それぞれ「学生から見た渋谷栄一像」について語りました。学生の言葉に対して渋谷研究会メンバーがコメント

のように練習を重ねて、試作品作りに励みました。

大学 まちラボ本郷で『ミニモゴモ展』開催

昨年12月5日、ワークショップ「ミニモゴモ展 in 文京学院大学」が、本学のまちラボ本郷で開催されました。

同ワークショップは、人間学部コミュニケーション・社会学科3年生13名が「まちラボプロジェクト」演習の授業の一環で企画・運営を実施。この日を迎えるにあたり、学生たちは同ワー

クショップの講師として招聘した東京藝術大学卒業生と共に「いかに3密を防いで実施するか」をメインに、内容や地域へのPR方法について話し合いました。その結果、チラシのQRコードからの参加応募とし、近隣の商店や文京幼稚園の協力を得てチラシを配布。13名は3グループに分かれて、各ワークショップを手伝え

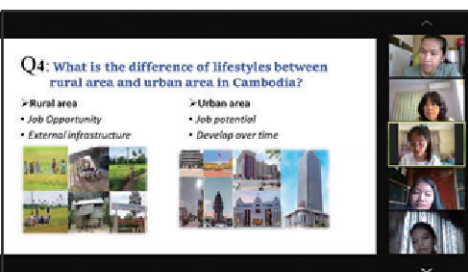


花を贈るジュエリーのワークショップ

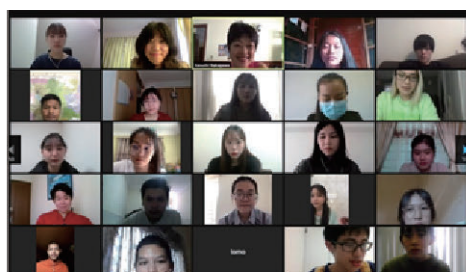
るよう練習を重ねて、試作品作りに励みました。

当日は、次のワークショップが行われました。●花を贈るジュエリー(生花やドライフラワーを使ったジュエリー作り) ●高瀬大輔講師 ●タティングレースに挑戦しよう!! (糸を使って結び目を作っていくレース技法でのモチーフ作り) ●松永小百合講師 ●和紙の染みどめを使った日本画ワークショップ(日本画の画材を利用し、

和紙に絵の具で絵を描く) 杉山佳講師 ●コロナ禍で人との関わりを制限された学生たちの顔に、明るい笑顔が戻った楽しいイベントとなりました。



カンボジアと本学学生のオンライン交流授業の様子



トし、エールを贈りました。後半は、事前に受け付けた参加者からの質問に対して、島田理事長をはじめ渋谷研究会メンバーが回答。「栄一」の人格形成、フライベットの側面「栄一」という存在の歴史的意義「栄一」が現代に生きていたらなど充実した質疑応答となりました。

最後に島田理事長が感謝の言葉とともにシンポジウムを総括し、有意義な3時間を締めくくりました。

「カンボジアのことを知りたい」と思っている日本の学生に感謝しています。

今回の交流は、カンボジアの貧富の格差、LGBTQ、教育などについて、お互いに理解し合う良い機会になりました。交流は本当に楽しく、私たちのスキルを向上させる素晴らしい機会となりました。

また、甲斐田ゼミ生からは次のコメントが寄せられました。「今回の授業で、カンボジアの女性た

大学 カンボジアの学生とオンラインで交流授業

甲斐田万智子外国語学部教授のゼミナールに所属する学生たちが、カンボジアの社会課題と卒業論文の研究テーマへの理解を深めることを目的に、昨年11月13日、同国のバンニャスストラ大学とのオンライン交流授業を実施しました。

当日は「女性に対する暴力」「貧困・差別・ジェンダー」「子どもの権利」の3グループに分かれ、ディスカッションを実施。本学からは3年生のゼミ生13名、先方からは1年生と4年生のジェンダー学を学ぶ学生30名が参加して意見交換。問題点を共有し、カンボジアが直面している現状や社会課題について考えました。

先方の学生からは次のコメントが届きました。

「カンボジアのことを知りたい」と思っている日本の学生に感謝しています。

今回の交流は、カンボジアの貧富の格差、LGBTQ、教育などについて、お互いに理解し合う良い機会になりました。交流は本当に楽しく、私たちのスキルを向上させる素晴らしい機会となりました。

また、甲斐田ゼミ生からは次のコメントが寄せられました。「今回の授業で、カンボジアの女性た